

項 目		内 容
供給	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥協会令和8年9月末時点まとめによると、8月の処理出荷推計実績は処理羽数が前年比97.0%、処理重量は同98.0%となった。現時点での9月の予測は処理羽数が前年比96.2%、処理重量は同96.2%の見通しとなった。10月は処理羽数が同98.9%、処理重量が同99.0%。また、11月は処理羽数が同99.1%処理重量は同97.5%の予測。なお、R8年9月以降の数値は取りまとめ時点の予測値であり、気象条件や需給環境の変化によって大きく変動する可能性があるため、今後の動向を注視する必要がある。
	2. 輸入	(1) 財務省の貿易統計によると、令和8年8月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲8.0千トンの50.4千トン、国別ではブラジルが前月▲3.5千トンの36.5千トン、タイが▲4.0千トンの13.4千トンとなった。 (独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の輸入量見通しでは、9月は60.9千トン(前年比105.4%)、10月は53.7千トン(同93.6%)とされ、9月は増加する予測だが、10月は減少する予測である。要因としては、「輸入量は、主要輸入先のブラジルでの生産が依然として堅調だったこと等から、9月は前年同月をやや上回る一方、10月は、同国で前年に発生した高病原性鳥インフルエンザにより、出船できなかったものが秋頃に通関されたこと等による影響で、前年同月の同国産の輸入量が高水準であったこと等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をわずかに上回ると予測する。」とされている。 (2) 令和8年8月の鶏肉調製品の輸入量は前月から▲6.3千トンの50.5千トン、国別では中国が▲2.4千トンの21.7千トン、タイが▲4.0千トンの27.4千トンとなった。 (3) 株式会社産新聞社発行の畜産日報によると、8月の輸入鶏肉(モモ肉)の価格はブラジル産で520円/kgから570円/kg(前年450円/kg)、タイ産が570円/kg中心(同500円/kg)となっている。要因としては「輸入品は相場の値下がりから末端からの問い合わせが増え改善の兆しがみえる。手前の現物はコストの高いものと安いものが混在しているものの、先物のオファー数量が減らされていることから、200 g以上のBLの値も底打ちした。」と報告されている。
	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・三人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和8年8月の生鮮肉消費(購入)は数量4,146g(前年比100.3%)、金額7,348円(同106.0%)と、数量・金額ともに前年を上回った。鶏肉は数量1,454g(同100.3%)・金額1,660円(同105.4%)・単価114.16円/100g(前年同月差+5.5円)と数量・金額・単価ともに前年を上回った。牛肉は数量は前年を下回ったものの、金額は前年を上回った。豚肉は数量・金額ともに前年を上回った。
需要	2. 量販・卸	(1) 一般社団法人全国スーパーマーケット協会の販売統計調査によると、令和8年8月の食品売上高は全店ベースで前年比102.8%と前年を上回り、生鮮3部門の売上高は全店ベースで同105.1%、既存店ベースは同103.7%。畜産部門の売上高は約1,387億円で全店ベース同104.8%、既存店ベース同103.2%となった。 また同社が取りまとめたスーパーマーケット景気動向調査によると、「畜産は、相場高が続くなか、豚肉、鶏肉、挽肉など比較的値頃感のある商品を中心に堅調な動きがみられた。豚肉では、切落し、薄切り、しゃぶしゃぶ用などが好調に推移し、鶏肉や挽肉も売上を下支えした。お盆商戦では、牛肉の焼肉用やステーキなどに需要がみられた店舗がある一方、高値や節約志向の影響から前年を下回った店舗もあり、好不調が分かれた。加工肉はハム、ソーセージ類などに伸び悩みがみられた一方、味付け肉や肉惣菜、半調理品など簡便商品に堅調な動きがみられた。仕入価格の高止まりが続くなか、価格訴求と利益確保に苦慮する声もみられた。」と報告されている。
	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和8年8月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比94.9%の4.3千トンとなった。うち国内品は同98.1%の3.4千トン、輸入品については同83.4%の0.8千トンと輸入品・国内品ともに前年を下回る結果となった。
在庫	1. 令和8年8月	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の8月末時点推定期末在庫では国産品33.6千トン(前年比101.4%)、輸入品137.8千トン(同108.7%)、合計で171.4千トン(同107.2%)となった。
	2. 見通し	(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、8月の出荷量は国産品137.0千トン(前年比100.9%)、輸入品44.3千トン(同94.3%)、合計181.3千トン(同99.2%)となり、前年からは国産品は増加したが、輸入品は減少した。 今後8月以降の見通しは、「出荷量は、9月は前年同月をわずかに下回る一方、10月は前年同月並みと予測する。期末在庫は、9月はかなりの程度、10月はやや、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、過去5カ年の同月平均との比較では、9月はかなり大きく、10月はかなりの程度、いずれも上回る(9月:12.9%増、10月:7.1%増)と予測する。」とされている。
相場	1. 令和8年9月動向	(1) 令和8年9月の月平均相場は、モモ肉821円/kg(前月差+2円)・ムネ肉461円/kg(同2円)正肉合計で1,282円/2kgと前月差±0円、前年同月差▲48円となった。鶏食品産業新聞社発行の畜産日報によると、「国産はシルバークイックを控えて、モモ・ムネともに正肉の引合いが強まっている。凍結品も加工原料向けに一気に引合いが入り、正肉関係は底を打った感も。副産物はササミやキモなど依然として引合いが強く、ネコが出難い。ブラジルBLは先物のオファー数量が少なく、在庫を確保するべく需給は引き締まっている。米国産レグも高値が継続している。」と報告されている。
	2. 見通し	(1) 10月の国内鶏肉生産は、一般社団法人日本食鳥協会の「生産・処理動向調査」によると、処理羽数・処理重量ともに前年同月を下回る見通しとなっている。夏場の高温による平均生体重の低下などが影響しているとみられるが、計画値であるため、今後の実績動向を確認する必要がある。 モモ肉は、気温の低下に伴う鶏肉需要の高まりから、10月以降は需要が回復し、相場は堅調に推移すると見込まれる。ブラジル産鶏肉モモ肉についても供給の引き締まりが意識されており、年末需要を見据えて国産凍結品を確保する動きが続くとみられる。ムネ肉は、国産品の価格上昇により輸入品との価格差が縮小していることから、加工原料の調達動向を注視する必要がある。量販店では、販売数量確保に向けた価格訴求や販促強化の動きが続くとみられる。 以上を踏まえ、10月の月平均相場は、国産鶏モモ肉835円/kg前後、国産鶏ムネ肉460円/kg前後で推移すると予測する。

実績

生産状況

単位：千羽、千トン、%

	R7年累計(推計)		R8年8月実績(推計)		R8年9月計画		R8年10月計画		R8年11月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	805,066	101.4%	63,132	98.3%						
処理羽数	763,029	101.6%	59,451	97.0%	60,650	96.2%	64,706	98.9%	60,401	99.1%
処理重量	2,299.0	101.1%	177.6	98.0%	179.9	96.2%	195.0	99.0%	183.8	97.5%

※参考資料：農全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位：千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R6年累計	639.2	584.9	109.3	503.2	478.0	105.3	1,142.4	1,062.9	107.5	56.0	44.0
R7年累計	591.5	639.2	92.5	529.8	503.2	105.3	1,121.3	1,142.4	98.2	52.8	47.2
R8年4月	51.9	47.7	108.8	48.7	43.3	112.5	100.7	91.0	110.6	51.6	48.4
R8年5月	50.9	48.5	104.9	43.3	43.3	100.0	94.2	91.8	102.6	54.1	45.9
R8年6月	55.9	51.6	108.4	53.3	44.0	121.1	109.2	95.6	114.2	51.2	48.8
R8年7月	58.5	48.2	121.2	56.8	50.0	113.6	115.3	98.3	117.3	50.7	49.3
R8年8月	50.4	49.6	101.7	50.5	41.5	121.8	100.9	91.1	110.8	50.0	50.0

※参考資料：(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位：グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年平均	1,552	1,495	103.8	1,586	1,547	102.5
R7年平均	1,555	1,552	100.2	1,682	1,586	106.0
R8年4月	1,548	1,549	99.9	1,750	1,630	107.4
R8年5月	1,520	1,564	97.2	1,756	1,664	105.5
R8年6月	1,499	1,458	102.8	1,724	1,572	109.7
R8年7月	1,476	1,436	102.8	1,657	1,538	107.7
R8年8月	1,454	1,449	100.3	1,660	1,575	105.4

※参考資料：総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」

相場(年別・暦年)

単位：円

	モモ肉	ムネ肉	計
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125
R6年	655	369	1,024
R7年	774	500	1,274

在庫状況(推定)

単位：千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R8年4月	36.3	25.0	145.6	113.2	127.4	88.9	149.6	152.4	98.2
R8年5月	36.1	27.0	133.8	122.2	128.2	95.4	158.3	155.2	102.1
R8年6月	35.2	29.8	118.2	126.3	128.8	98.1	161.5	158.6	101.9
R8年7月	34.0	31.3	108.7	131.7	124.1	106.1	165.7	155.4	106.6
R8年8月	33.6	33.2	101.4	137.8	126.7	108.7	171.4	159.9	107.2

※参考資料：(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

出回り量(推定)

単位：千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年累計	1,721.2	1,689.0	101.9	619.9	606.3	102.2	2,341.1	2,295.4	102.0
R7年累計	1,725.4	1,721.2	100.2	614.8	619.9	99.2	2,340.2	2,341.1	100.0
R8年4月	149.9	148.9	100.7	53.3	51.5	103.5	203.2	200.4	101.4
R8年5月	146.2	143.9	101.7	41.9	47.8	87.7	188.2	191.6	98.2
R8年6月	146.3	138.4	105.7	51.8	50.9	101.7	198.1	189.3	104.6
R8年7月	142.1	140.9	100.8	53.9	53.0	101.7	195.9	193.9	101.1
R8年8月	137.0	135.7	100.9	44.3	47.0	94.3	181.3	182.7	99.2

※参考資料：(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位：円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R6年平均	655	730	89.7	369	395	93.4	1,024	1,125	91.0
R7年平均	774	655	118.2	500	369	135.5	1,274	1,024	124.4
R8年6月	832	832	100.0	477	530	90.0	1,309	1,362	96.1
R8年7月	823	803	102.5	469	555	84.5	1,292	1,358	95.1
R8年8月	819	778	105.3	463	568	81.5	1,282	1,346	95.2
R8年9月	821	757	108.5	461	573	80.5	1,282	1,330	96.4
R8年10月	(835)	731	114.2	(460)	557	82.6	(1,295)	1,288	100.5
R8年11月	(845)	736	114.8	(460)	545	84.4	(1,305)	1,281	101.9

※()は見通し